



(前列左から)児童代表の立原さんと生田さん

— 食育の大切さや地産地消を学ぶ —

JA熊本うきが松橋小に新鮮野菜を贈呈

11/17 JA 熊本うきトマト専門部会^{まわりだまこと}の廻田 誠部会長と同年専門部会の山森悦嗣^{えつし}部会長が、松橋小を訪れトマトとナスを贈呈。受け取った6年生の生田蘭^{らん}さんと立原夢叶^{たちほらゆめか}さんは「給食でこの野菜が提供されるのが楽しみです。」と笑顔で話しました。また、三角・小川地区の小中学校にはミニトマトが贈呈されました。



笑顔で優勝を報告する同クラブの皆さん

— ベースボールショップドラフト杯2連覇 —

青海ソフトボールクラブが優勝

12/1 同杯小学生ソフトボール大会で同クラブが2年連続2回目の優勝を飾り、市に報告に訪れました。チームで主将を務める6年生の平野幹汰^{かんた}さんは、「夏の全国大会で予選敗退し、悔しい思いをしたが、一生懸命練習して優勝でき、うれしかった。」と話し、夏の悔し涙を見事にうれし涙に変えた大会となりました。



(右)寄付金を手渡す須藤熊本支社長

— 市民の健康増進を願い —

明治安田生命保険から寄付

11/14 本市と健康増進に関する連携協定を締結している明治安田生命保険相互会社の須藤博和^{ひろかず}熊本支社長から、市に約50万円の寄付金が贈られました。これは、同社が実施する「地元の元気プロジェクト」の一つ「私の地元応援募金」の取り組みによるもの。寄付は令和2年度から3回目で、市の健康増進のために有効に活用します。



法の館の前でカヤックの操作説明を受ける参加者

— モニターツアーを開催 —

三角西港に観光コンテンツを

11/17 宇城市観光物産協会が、世界文化遺産「明治日本の産業革命遺産」の三角西港一帯の活性化を目的にツアーを企画。カヤックや法の館でのテント泊、宇城バッテラ寿司の試食などを体験しました。カヤックを体験した参加者は、「海から世界遺産を見ることができて良かった。」と満足そうでした。



式には表彰された8人のうち5人が参加

— 市の発展に8人が貢献 —

市の発展を支えた皆さんを表彰

11/1 経済、文化、社会など市の発展に寄与した人に表彰状と記念品が贈呈されました。守田憲史^{けんし}市長は「皆さまの知恵や経験は、私たち市民の大切な財産です。」と功績に感謝の意を表しました。市議会議員を8年以上務めた大村 悟^{さとる}さん(71)は、「議員時代は教育の在り方に取り組み、今後も市政の発展を応援したい。」と語りました。



たくさんのお客さんに宇城市の特産品をPRしました

— 宇城市×日本航空×空港ビルデング コラボ企画 —

羽田空港で市の特産品が大盛況

11/12・13 羽田空港で、宇城市、日本航空、日本空港ビルデングのコラボ企画「宇城市地域特産フェア」を開催しました。市の特産品の太秋柿や美味柑^{びみかん}、コノシロ焼き寿司などをそろえ、市のPRも兼ねて販売。会場は市の特産品を買い求めようと多くの人で大盛況でした。日本航空の皆さんの協力もあり用意した商品は全て完売しました。



三角西港観光ガイドの会の本山登師^{とんし}子さんが案内

— 三角西港の歴史を知る —

豊野女性学級が三角西港で学習

10/25 豊野女性学級が三角西港観光ガイドの会の案内で開港の歴史を学び、石積埠頭や旧高田回漕店、旧三角簡易裁判所などの歴史的建造物を見学。同学級は体験や学習を通して、知識や教養を高め、学級生同士の絆や交流を深めることを目的に毎年講座を開催しています。学級生からは「歴史を学べて良かった。」との声が聞かれました。



行方不明者の搜索訓練をする地区住民たち

— 地区から行方不明者を出さないために —

認知症^{はいかい}等徘徊者搜索・声掛け模擬訓練

11/6 同訓練が不知火町の御領五区の主催で行われ、住民や消防団など約50人が参加しました。今回は、地区の高齢者が午前6時に家を出たまま帰ってこないと家族から搜索依頼があった想定で模擬訓練を実施。参加者からは「困っている高齢者を見掛けたらどう対応するか。」などさまざまな意見が出ました。